

# オロフレ山東斜面滑走

平成31年2月11日

GL：藤木、SL：小山内、宇佐美、佐藤

いつもサンライバスキー場で見ると白く輝く迫力のオロフレ山東斜面は、魅力的でいつかは滑りたいなと思い続けていたが、今回リーダーの計画で実現となった。

9：30ハイク開始。単独先行者あり支度中出発している。ここ連日異常に寒い日が続いておりコンディション良好。一汗かいて10：10 980m峰稜線に出る。山頂付近は雲の中だが青空が広がってきている。

10：35 950mコルに先行者の姿が見える、グイグイ登っている。

11：00 1062m峰を越え急登前のコルで、登り返し尾根のルートチェック。

11：30スキーでの登りは困難となる。リーダーがここで本日の終点とするか？  
反応なし、沈黙、よし決行する、行くぞ！

11：45ブーツアイゼンでスキーを背負っての登りは初めてだ。ズボズボ埋まる、核心部では上半身スッポリの踏み抜きにもなり這い上がるのに悪戦苦闘。三角鉄板のある岩を過ぎると勾配も緩くなり。

12：20スキーでの登りとなる。

12：50頂上着。無風。気温-15℃。

羊蹄山は雲の中、洞爺湖湖面のブルーがキラキラ輝いている。クッタラ湖湖面はほぼ白色。来馬岳からカルルス山、1058m峰の起伏の少ない稜線上の空の青と山の白との対比が鮮やかだな。

13：20先行するシュプール跡確認でドロップイン、  
日差しがあり雪面が読める。モチベーションヒートアップ  
ディープなパウダーが深い。オーバーヘッドスプレーが舞い上がり全員喜びの声を上げながらの、大小自由自在なパラレルターンを描きながらの大滑走となった。

シュプール確認停止、ギルランデで右方向に移動、また落下、この繰り返しで

13：45沢床に滑り込む。リーダーいわくこれほどスプレーを浴びながらの長い滑りは記憶に無いそうです。

ピークは遠くに見え広大な斜面だなと実感し、ついにやったと心うっとり、だが登り開始を考えるとウカウカしてられない。

14：00登行にトレースは沢を下り尾根に取り付いている、我慢に耐え

14：20稜線に出た、1062m峰裾肩を目指しトレースは続いている。肩に出ると南方の視界が広がり現在地確認、左谷足トラバースになり、雪崩っぽい斜面もあり慎重に通過。

14：50登りトレースがある950mコル着。

先行した若い方、あなたのお陰で頂上からこの地点までスムーズに来ることが出来ました。ありがとうございました。単独での大滑走、かなりの強者ですね。

15：20ハイク完。登りのトレース、1062m峰戻りトラバース跡が光を受けクッキリ見え、満ち足りた気分だな。

15：30ドロップイン、樹林帯の急斜でありスピードコントロールで滑ろう。

16:00 全員スタート地点着。藤木、宇佐美両氏の最後まで疲れを感じさせないタフな滑りはさすがでしたネ。

疲労感全身いっぱいだが、やり遂げた充実感で胸いっぱいなのだ。これもリーダーの決断があったからこそです。ありがとうございました。

リーダー、仲間に感謝します。ワンダフルな一日でした。

記録 佐藤

